

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
ひびきLNG基地建設工事プラント設備工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)201
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.30			3.1
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		2.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	外部に面した窓が無い。	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		2.0	1.00	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		3.1	0.50	-	-	
1 室温		2.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・遠隔制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能	外壁:U=0.72、屋根:U=0.83	5.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.2	0.25	-	-	3.2
3.1 屋光利用		3.0	0.43	-	-	
1 屋光率	外部に面した窓が無い。	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明装置のグレア		-	-	-	-	
2 屋光制御	外部に面した窓が無い。	-	-	-	-	
3 視認性対策		-	-	-	-	
3.3 照度	750Lx ≤ 照度 < 756.7Lx < 1000Lx	4.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.36	-	-	
4 空気質環境		4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆採用。	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダイオキシン対策		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	
1 換気量	基準法を満たす換気量の1.4倍以上。	5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室の天井裏を区画している。負圧になっている。	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.7
1 機能性		3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペース:62.76m ² >12m ²	5.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
3 パリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		1.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュコーナーが執務スペースの1%以上、自動販売機コーナーがある。	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	内装計画コンセプト、インテリアパースなど	4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材、掃除流し設置、パルプ操作が容易など	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.2	0.31	-	-	4.2
2.1 耐震・免震		4.6	0.48	-	-	
1 耐震性	Qu/Qun=2.66 >1.5	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	コンクリートの上、磁器質タイル貼り:40年程度	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用している。	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			4.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	空調・換気設備共、優先運転・低負荷運転等が出来る。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、工水の使用。	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	発電機+UPS+受電2重化+浸水の危険なし	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	1階階高:7.25m、2階階高:4.20m ≥3.9m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≤壁長さ比率:0.17<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		公共空間からほとんど見えない	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		LED照明の採用	3.5	0.43	-	-	3.5
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	3.0				
		集合住宅の評価	3.0				
		ERR=10.2%					
4 効率的運用			3.0	0.29	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.6	0.15	-	-	3.6
1.1	節水	節水コマ+省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	工業用水を利用している。	4.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	解体時に分別しやすいボード下地構成。躯体+軽鉄+仕上材	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン発泡断熱材を採用。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=97%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1	大気汚染防止	GHPのNox濃度が現行の基準より大幅に抑えられている。	4.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪・駐車・管理スペース、導入路の配慮	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半。広告物照明がない。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	